


重点取組名	安全安心な基盤づくりに向けたエコファーマーの緊急育成
普及活動担当	各農林水産事務所普及指導室（6普及指導室、4普及分室）
主要な活動地域・対象農業者	県全域において、化学肥料と農薬の節減や土づくりに取り組む農業者、農業者組織を対象（重点取組地区として、今別町「いまべつ野菜の会」ほか15地区）
取組結果・成果 〈取組みのねらい〉	<p>1 取組みのねらい 化学肥料や農薬の節減に組織的に取り組む農業者組織等を重点対象とし、研修会の開催や個別指導により、持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画の作成と達成を支援。</p> <p>2 活動目標・成果目標</p> <p>(1) 活動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術支援担当の普及指導員による化学肥料及び化学農薬低減指導 目標指導回数 30回 → 実施指導回数 65回（実績：目標対比217%） ・「エコ農業カレッジ」等研修会の開催 目標指導回数 30回 → 実施指導回数 34回（実績：目標対比113%） <p>(2) 成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコファーマーの増加（目標：500経営体純増） 17年3月 3,404経営体 → 18年3月 4,084経営体（実績：680経営体純増）
連携機関、協議会等	有機の里づくり推進会議
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>（現地事例）</p> <p>タイトル：トマト産地におけるエコファーマー認定への組織的な取組み 対象組織：JA八甲田野菜振興会トマト専門部会（104名） 普及組織：上北地方農林水産事務所普及指導室</p> <p>事例内容：</p> <p>上北地方農林水産事務所普及指導室は、平成17年度からJA八甲田野菜振興会トマト専門部会を対象に、消費者にPRできるトマト産地づくりを目標に、全部会員のエコファーマー認定を目指した。</p> <p>技術要件の説明、新規に導入する技術の検討、申請書類作成への支援等の普及指導活動を展開した。同部会では、①「JA八甲田すみ堆肥」の使用による土づくり、②肥効調節型肥料を使うなど化学肥料使用量の低減、③全面マルチを使用し農薬使用量の低減を図るなど環境にやさしい農業の実践を部会組織を挙げて取り組んだ。</p> <p>平成17年7月には、水耕栽培農家を除く95名がエコファーマー認定を受け、出荷最盛期の8月以降は出荷箱にエコマークを付け、「八甲田トマト」の安全、安心を積極的にアピールしている。</p>
【参考】	 <p>写真：エコファーマー認定を受けたJA八甲田野菜振興会トマト専門部会員</p>